ここにいま

平成２８年度西朝明中学校
学校通信　第　４　号
平成２８年９月３０日

本年４月に第３学年の生徒が取り組んだ「全国学力学習状況調査」について、資料が届きました。生徒・保護者の皆様にお知らせできることとなりましたので、お知らせします。

全般的に見れば、国語Ａ・国語Ｂ・数学Ａ・数学Ｂの４科において、３年前の小学校６年生の時から比較すれば上昇しており、特に数学Ｂの伸び率は高いとのことです。さて、本校の第３学年の現状を簡潔にお知らせします。

国語Ａ　評価の視点は、話す・聞く能力、書く能力、読む能力、言語についての知識・理解・技能の４つから、選択式と短答式で解答を求められました。

どちらかと言えば、書くことの領域でやや強く、読むことの領域がやや弱く、話すこと・聞くことは弱いという傾向が見られます。授業ではもちろんのこと、学校生活全般を通して、話をしっかり聞く姿勢によって聞く力をつけていくことが大切です。また、考えをまとめて筋道を立てて話す力をつけていく必要があると考えます。

幸いにも、本校の生徒たちは読書が好きです。上述の強みを伸ばし、弱みを克服するために基本に立ち戻り、黙読ではなく音読をしてみてはどうでしょうか？結果として書く力も向上していくと期待できるからです。

国語Ｂ　評価の視点は、国語への関心・意欲・態度、書く能力、読む能力の３つから、選択式、短答式、記述式で出題されました。

国語Ａではやや強かった書く力が最も弱いという結果でした。国語Ａのような短い文を書く力はついているのかもしれませんが、国語Ｂのように条件がいくつも重なるものを読み解いて文章にする力は弱いと言えます。読む力の上にさらに書く力をつけていくことが要求されていたと思われますから、単に作文練習をしただけでは対応しきれないと思われます。すると、条件付きの作文を書いて練習する必要があると考えられます。また、記述式の問題が弱かったことからも同様のことが言えると思います。

数学Ａ　評価の視点は、数学的な技能、数量や図形などについての知識・理解の２つから選択式と短答式で出題されました。この数学Ａが４科の中で最も高い得点でした。その中でも、数と式、関数、資料の活用が強みだと言えます。一方、図形の分野でやや弱く、知識を問われた際に選択式、短答式のいずれにおいても弱かったように思います。

比較的、基本的な学習を頑張っている生徒が多いことがわかりますが、その基本的な学力に大きく差ができていることが数学Ａで特に気になるところです。得点の低かった生徒への基本の定着の学習が一層重要だと言えます。

数学Ｂ　評価の視点は、数学的な見方や考え方、数学的な技能の２つから、選択式、短答式、記述式で出題されました。数学Ｂでは、関数の分野でやや強みが見られるものの、数と式、図形、資料の活用ともに、やや弱いと言えます。問題の形式による正解率よりも、問題文を理解できるかどうかで正答率や無解答率が変わっているようです。数学でも、問題文を理解する国語の力が必要です。解答を書く以前に、条件を読み解くまでに諦めてしまっている結果かもしれないと思われた国語Ｂの白紙とも通じるところかもしれません。文書を読み取る力や、あきらめない粘り強さを育成していく必要を感じます。

この号では紙面が足らず全てを紹介できないので、質問紙については次の号でお知らせします。

＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　　文化祭に向けて　　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊

８月２０日の除草作業では保護者の皆様に大変、お世話になりました。ありがとうございました。ところが、９月の体育祭までには草は伸び放題となり、当日に保護者の方をお迎えするには忍びない有様でした。生徒たちは、学年・部活動等で懸命に作業してくれて、綺麗にして当日を迎えました。

文化祭に向けても生徒たちは懸命な頑張りを見せてくれると期待しています。清掃以上に頑張った合唱や文化活動を、お時間が許しましたらご覧ください。

綱引き（背景は生徒が取り組んだ除草の跡）